

中 学 校

平 成 4 年 度

教 育 研 究 員 研 究 報 告 書

外 国 語  
(英 語)

東 京 都 教 育 委 員 会

平成 4 年 度

教育研究員名簿 ( 外国語 )

分科会名	区市町村名	学 校 名	氏 名
第1分科会	八王子市	第 七 中 学 校	松 尾 光 洋
	府中市	府中第四中学校	小 柳 隆
	町田市	堺 中 学 校	霜 村 奈保子
	小金井市	第 一 中 学 校	<input type="checkbox"/> 坂 田 直 子
	秋川市	秋 多 中 学 校	久 田 和 義
第2分科会	台東区	台 東 中 学 校	永 塚 豊
	墨田区	鐘 淵 中 学 校	石 鍋 浩
	目黒区	第 九 中 学 校	佐 藤 敦 子
	世田谷区	池 尻 中 学 校	本 多 敏 幸
	葛飾区	桜 道 中 学 校	根 本 好 三
	江戸川区	葛 西 第 三 中 学 校	菅 原 幸 子
第3分科会	港区	高 陵 中 学 校	◎藤 井 雅 子
	新宿区	落 合 第 二 中 学 校	○野 瀬 博
	板橋区	志 村 第 一 中 学 校	萩 坂 雅 之
	練馬区	練 馬 中 学 校	吉 村 達 也
	東久留米市	下 里 中 学 校	鈴 木 陽 子

◎世話人    ○副世話人    □記録

担当 教育庁指導部中学校教育指導課指導主事 中 村 馨  
 多摩教育事務所指導課指導主事 山 本 新 治

# 目 次

I	研究主題及び研究主題設定の理由	2
II	研究経過	3
III	研究内容	4
<b>第1分科会</b>		
1	研究の仮説とねらい	4
2	研究内容	5
(1)	用語の定義	5
(2)	言語活動一覧表	6
(3)	指導例	8
3	成果と改善点	10
<b>第2分科会</b>		
1	研究の仮説とねらい	11
2	研究内容	11
(1)	アンケート調査	11
(2)	スピーチ	14
(3)	ペアワーク	15
3	研究の成果と課題	17
<b>第3分科会</b>		
1	研究の仮説とねらい	18
2	研究内容	18
(1)	指導例	18
(2)	指導上の留意点	21
(3)	資料	22
3	成果と改善点	23
IV	まとめと今後の課題	24

## 研究主題

コミュニケーションを積極的に図ろうとする態度を育成する指導の工夫

### I 研究主題設定の理由

ここ数年、我が国では今だかつて経験したことのない速さで国際化が進んでいる。そして国際化に合わせて、コミュニケーションの手段としての外国語、特に英語への社会の関心が高まっている。それに加え、学習指導要領も改訂され、そのねらいの一つとして「コミュニケーション能力の育成」が重視された。また、AETの導入も今までの英文訳読、文法中心の指導の見直しと「コミュニケーション能力の育成」について考えるよい機会となっている。

今、様々なところで、国際社会に必要な「使える英語」という視点から、今までの学校での英語教育への見直しが強く求められている。今までの教師主導型の指導では、「使える英語」が身に付きにくい、英語への「興味・関心」が中学生のうちから薄らいでしまう、などの反省点が挙げられる。

このような状況を考え合わせ、本年度は「コミュニケーション」にポイントを置き研究することにした。「コミュニケーションとは何か。」「何をどのように教えれば、コミュニケーション能力が身に付くか。」などの話し合いをしながら、さらに焦点を絞っていった。新学習指導要領の基本方針の一つに「自己教育力の育成」が挙げられているが、この意欲をもった主体的な学習の仕方という点も今までの指導の反省から、クローズ・アップしなければならない、と考えた。そこで、基礎・基本を身につけさせるとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成できれば、コミュニケーション能力を身に付けることにもつながるだろうと考え、上記の主題を設定した。

本研究を進めるに当たり、下記のように三分科会に分かれ、それぞれの仮説を設定し、それを実証するために実践を繰り返した。

第1分科会：普段の授業の中で生徒が英語を使わなければならない場面を多く設定すれば  
コミュニケーションを積極的に図ろうとする態度を育成できるであろう。

第2分科会：授業において、生徒同士で英語を「聞く」「話す」場と量を多くすれば、  
コミュニケーションを積極的に図ろうとする態度を育成できるであろう。

第3分科会：AETとのTeam Teachingを授業の中で効果的に行い、生徒が直接外国人と英語で話す機会を多くすれば、コミュニケーションを積極的に図ろうとする態度を育成できるであろう。

## Ⅱ 研究経過

16名の研究員の総意で研究主題を決めて以来、各自が研究と実践を繰り返し、お互いに刺激し合う中で、実り多き活動ができた。

- 総 会 — 多摩教育研究所 14:30～  
(4月13日) 研究員委嘱 事業説明 年間予定 自己紹介 世話人選出
- 第1回月例会 — 港区立高陵中学校 14:00～  
(5月12日) 研究主題・内容決定 研究の進め方の検討 三つの分科会決定
- 第2回月例会 — 世田谷区立池尻中学校 13:25～  
(6月11日) 研究授業(本多敏幸教諭) 研究協議 仮説の検討 研究構想 実態調査
- 第3回月例会 — 江戸川区立葛西第三中学校 13:25～  
(6月26日) 研究授業(菅原幸子教諭) 研究協議 先行研究 基礎研究 調査の分析
- 第4回月例会 — 新宿区立落合第二中学校 10:00～  
(7月28日) 研究内容・方法の具体化 指導計画の作成 指導案の検討
- 御岳研究集会 — 青梅市御岳山宿坊  
(8月20日～22日) 問題点の整理・検討 研究内容・方法・仮説の再検討 指導案の検討
- 第5回月例会 — 八王子市立第七中学校 13:25～  
(9月14日) 実証授業(松尾光洋教諭) 研究協議 研究内容の実践・検証  
報告書プロット作成 執筆分担
- 第6回月例会 — 府中市立府中第四中学校 13:25～  
(10月6日) 実証授業(小柳隆教諭) 研究協議 研究内容の実践・検証  
報告書執筆内容検討
- 第7回月例会 — 墨田区立鐘淵中学校 13:40～  
(10月27日) 実証授業(石鍋浩教諭) 研究協議 研究内容の実践・検証 原稿検討
- 第8回月例会 — 目黒区立第九中学校 14:00～  
(11月24日) 原稿検討・提出 補助資料の準備
- 第9回月例会 — 東久留米市立下里中学校 14:00～  
(1月18日) 発表会準備 指導案検討 補助資料の検討 係分担
- 研究発表会 — 新宿区立落合第二中学校 13:30～  
(2月4日) 公開授業(野瀬博教諭) 研究発表 研究協議 反省会

## 第1分科会

### 1 研究の仮説とねらい

第1分科会では、研究主題『コミュニケーションを積極的に図ろうとする態度を育成する指導法の工夫』の仮説として『普段の授業の中で生徒が英語を使わなければならない場面を多く設定すればコミュニケーションを積極的に図ろうとする態度が育成できるであろう。』と考えた。

従来の私たちの授業では文法事項の説明と訳読、その定着を図っての練習問題に学習の重点が置かれてきた。教師も生徒もいかに文法的誤りをおかさないようにするかに最大の関心を払ってきたとも言える。英語を文法知識としてとらえても、英語がコミュニケーションの手段として実際に使われることが少なかった。例えば、英語の授業なのにほとんどが日本語による文法の説明や訳読中心で、唯一聞こえてくる英語は生徒のコーラスリーディングだけというような極端な例もあるかもしれない。そこには英語を使わなければならない場面は見られない。

私たちの考える英語を使わなければならない場面とは、①互いに自分が知らない情報を相手が知っているという『コミュニケーション・ギャップ』の考え方と、②そうした情報をワーク・シートなどに記入するなどの課題を完成させるという『タスク』の二つの要素から成り立つ疑似コミュニケーションである。すなわちこの疑似コミュニケーションの場を普段の授業の中で多く設定することによって生徒は必然的に英語でコミュニケーションすることに慣れていくだろうと考えた。

この仮説に基づき授業をするに当たって、まずコミュニケーションの4技能と言われる、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4領域それぞれにおける疑似コミュニケーションを取り入れた言語活動を考え、それらを授業のウォーム・アップ、導入部、展開部、まとめの部分にふりわけ授業展開のどの場面に設定するのが効果的かを考えた。

これらの言語活動は便宜的にはそれぞれ四つの独立した領域に分けられるが、その中のいくつかは単一の技能の練習に終らずいくつかの技能の関連した練習になっている。なぜならば私たちは日常、「聞く」という行為を行うとしても、ただ聞くだけ聞いてその人と別れてしまうことはめったになく、その話の合間に質問をすとか、場合によってはメモを取るなどの行為を行うからである。こうした自然なコミュニケーションになるべく近づけた疑似コミュニケーションの場を学習者のレベルとそのときの学習目標を考えながら、実際の授業に取り入れて検証することにした。

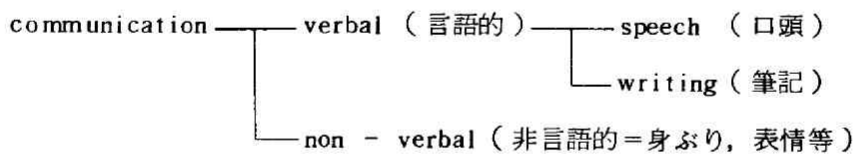
## 2 研究内容

### (1) 用語の定義

研究を始めるにあたり、まず、「コミュニケーション」「コミュニケーション能力」「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度」の定義をした。

#### ア コミュニケーションの定義

「コミュニケーション」とは話し手と聞き手の間の意思伝達ととらえた。人間の行うコミュニケーションは、下図のように、言語的手段によるものと、非言語的手段によるものに大きく分けられ、また、言語的手段は口頭と筆記に分けられる。更に、話し手と聞き手の関係で言うならば、個人間、集団内、異文化間等と多岐にわたる。



#### イ コミュニケーション能力の定義

コミュニケーション能力の定義を、Sandra J. Savignon の Communicative Competence : Theory and Classroom Practice における定義に従った。(1)Grammatical Competence (文法の能力) (2)Sociolinguistic Competence (言語を適切に使用する能力) 社会的な場面、人間関係、聞き手の社会的・文化的背景を考慮して言語を使用する力 (3)Discourse Competence (談話構成能力) 孤立した文を作るのではなく、文のつながりの中で言語を使用する力 (4)Strategic Competence (コミュニケーション方策の能力) 話し手が表現できなかつたり、聞き手が理解できなかつた時、別の言葉におきかえたり、やさしく言いかえる等の方策

#### ウ 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の定義

積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度とは、進んで自分の気持ちや意見を伝えようとしたり、相手の気持ちや意見を理解しようとする態度である。これは、従来の学習態度や授業態度と区別して考えるべきものである。積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度は、生徒が話し手に対して、アイ・コンタクトをとっているか、聞き返そうとしているか、疑問点を解明しようとしているか、相手の言葉に素速く反応しようとしているか、教師の指示を待って行動するのではなく、生徒から進んで発話しようとしているかにあられるものと考えることができる。

## (2) 言語活動一覧表

以下の表は、「生徒が英語を使わなければならない場面」で使用できる言語活動を表にしたものである。あまり準備を必要とせず、所要時間も10分前後のものとした。

言語活動名	形態	内容	留意点・領域
Hang Man	T-Ss S-Ss	既習単語を使い、競い合う。	前時の復習に利用 W
ワンポイント英会話	全員	NHK「とっさの英会話」などのビデオを見て復唱	L・S
リズム練習	全員	短い文をテープに合わせて、リズムカルに復唱 イントネーションに注意する。	L, R
リスニング	全員	電話番号など、あまり文法知識の必要ない英語の聞き取り	英語の自然な速さに慣れさせる。L
間違い探し	T-Ss	簡単な絵を配布し、不自然な所を、英語で指摘する。他の生徒の発表を聞き正誤を確認する。	L・S
映画鑑賞	全員	映画のせりふで既習の文を聞き取ったり、途中で止め、後のせりふを推測する。	身近な題材を効果的に使用。L
誰でしょう	T-Ss S-Ss	Information Gap を使った表を見て誰のこ とか当てる。	L・S
単語当てゲーム	T-Ss	教科書のKey Wordに関するヒントを英語で与え、語を当てる。	L
お見合い	S-S 全員	いくつかの情報を書いた紙を1枚ずつ配る。自分の情報と同じ相手を探す。Information Gapを使ったインタビュー・ゲーム	L・S
スキット	ペア T-Ss	何組かが発表して、他の生徒はその内容について教師とQ&A	大きい声で発表させる。L・S, W
サイン収集	全員	質問を書いたカードを他の生徒に回す。回ってきたカードの質問にYesの生徒はサインする。 1番多くサインをもらった生徒が勝ち	WのQ&Aを通して、Information Gapを埋める。
英語カルタ	班対抗	読みあげられた英文に合ったカルタをとる。 生徒が英文を作って、読みあげてもよい。	L・S, W



フォー・コーナーズ	4人組	教室の四隅にはられたそれぞれ情報の異なる4枚の掲示から、4人が一人ずつ、必要な情報を集め、情報交換しながら表を完成する。	Information Gapを利用し、4技能を総合した活動
レッスンの内容確認	T-Ss	レッスン全体を通した内容に関する質問表を、英文を聞いて埋める。複数解答から選択する。レッスンのまとめの活動	クラスの実態に応じ、質問をプリントすればR・W, L
紙芝居	S-Ss	マンガや絵の内容を英語で説明する。	L・S

※ L: 聞くこと S: 話すこと R: 読むこと W: 書くこと

英語カルタ・使用カード例



間違い探し・ワークシート例

WHAT IS WRONG WITH THE PICTURES?

	This hen has _____ hen leg
	The ball is _____ ball big boy
	The dog _____ dog horse fast
	He _____ swim clothes

※ 実際の枚数はもっと多い。1枚ずつ切り離して使う。

(3) 指導例

第1学年

①教材 TOTAL ENGLISH 1 Lesson 6 「はじめましてJack」

②指導のねらい ア 3人称のbe動詞を使って、第三者の名前・職業・年齢などの紹介ができるようにする。

イ 所有格の代名詞や所有を表す表現を理解し、使用できるようにする。

③指導内容

〈1〉 誰のことでしょう

2名の生徒を指名し、1名にカードを渡し発表させる。他の1名には通訳をさせ、一般生徒には情報をワークシートに記入させる。

生徒A：ある人物についての情報（名前・職業・年齢・国など）が記されたカードを見て、皆に紹介する。

生徒B：Aが話した英語を皆に通訳する。

一般生徒：通訳を確認しながら指定の用紙に情報を記入していく。

This is ~ He/She is ~ の文

(No. 1)
name: John
job: student
age: 17
country: Canada
hobby: swimming

(No. 2)
name: Mike
job: doctor
age: 36
country: Germany
hobby: skiing

(No. 3)
name: Chan
job: nurse
age: 28
country: China
hobby: tennis

(No. 4)
name: Lucy
job: teacher
age: 31
country: USA
hobby: cooking

(No. 5)
name: Carlos
job: policeman
age: 42
country: Spain
hobby: books

(No. 6)
name: Miho
job: singer
age: 20
country: Japan
hobby: music

他 (No. 10) まで

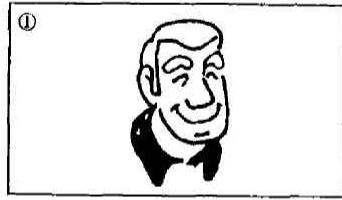
Fill in the blank boxes

NAME	JOHN	MIKE	CHAN	LUCY	MIHO
JOB			nurse		
AGE		36			
COUNTRY		Germany	China		Japan
HOBBY	swimming			cooking	

〈2〉 フォー・コーナース

前時で学習した文を使い、4人グループをつくり、一人ずつ教室の四隅にはられた情報を読んで交換しながら、ワークシートを完成させる。

【1】 次の4枚の絵についての英文の説明が教室の壁面に張ってあります。四人グループを作り、分担して下の英語の \_\_\_\_\_ 部分に入る答えを読みとって来よう。それぞれの調べてきた答えを聞き \_\_\_\_\_ に記入しなさい。



My name is \_\_\_\_\_  
 I am \_\_\_\_\_'s friend.  
 I come from \_\_\_\_\_  
 I speak \_\_\_\_\_  
 I like \_\_\_\_\_

My name is \_\_\_\_\_  
 I am \_\_\_\_\_'s friend.  
 I come from \_\_\_\_\_  
 I speak \_\_\_\_\_  
 I like \_\_\_\_\_

第3学年

①教材 TOTAL ENGLISH 3 Lesson 4

②指導のねらい ア 物語全体の概要や要点を読みとる。

イ 現在完了形などを含む文を用いて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

③指導内容 ア Lesson 4 [A]~[D] 「白魔の悲劇—スコット南極探検隊」

イ インタビュー・ゲーム

現在完了(完了用法)のQ&Aを通して自分のもっているカードと同じ相手を探す。

(時間は3~5分程度)

Let's play the Interview Game!

(例) A: Have you eaten dinner yet?  
 B: Yes, I have. (No, I haven't)  
 Have you watched Back to the future?  
 A: Yes, I have. (No, I haven't)  
 Have you finished your Japanese homework?  
 B: Yes, I have. Good! You're my partner!  
 (No, I haven't)

Rules

- ① You must speak English.
- ② Ask your classmates questions in English
- ③ Write the answers in your notebook or on your card.

<ul style="list-style-type: none"> <li>• eaten lunch.</li> <li>• watched Alien 3.</li> <li>• finished your English homework.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• eaten lunch.</li> <li>• watched Fook.</li> <li>• finished your English homework.</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• eaten lunch.</li> <li>• watched E.T.</li> <li>• finished your English homework.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• eaten breakfast.</li> <li>• watched Alien 3.</li> <li>• finished your English homework.</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• eaten lunch.</li> <li>• watched Alien 3.</li> <li>• finished your math homework.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• eaten breakfast.</li> <li>• watched Fook.</li> <li>• finished your math homework.</li> </ul>

### 3 成果と改善点

個々の授業で、研究主題とその仮説に基づいた指導案を立て、実践していく中で、研究主題と関連する部分において、教師・生徒両方の立場からどのような成果があらわれてきたか。また、そこに残される問題点などを考えてみた。

まず教師の側からは、限られた授業時数の中でも、教師の創意工夫で十分研究主題にそった授業ができることが分かった。英語の授業を単なる知識の伝達にとどめるのではなく、あくまでもコミュニケーション能力を高めるためのものと考えれば、授業のスタイルもかなり変わってくる。教師は生徒に英語の知識を与えるのではなく、生徒にいかに関積極的にコミュニケーション活動をさせるかが重要になってくる。いわば実技指導者的な立場である。そのような教師自身の発想の転換が必要になってきた。また、英語の授業で英語を多く使用するという、至極当然のことを、教師・生徒双方が納得できるようになった。

次に生徒の側からは、コミュニケーション活動を取り入れることによって、ペーパーテストで能力を示さない生徒も積極的に参加し、授業に活気が出てきた。また絵や視聴覚教材を使ったり、スキットやペアワークなど生徒の主体的活動により、授業をおもしろいと感じる生徒が増えてきた。生徒自身も様々な活動を通して、英語をコミュニケーションの手段としてとらえるようになったと言える。コミュニケーション中心の授業では生徒も生き生きとし、英語に対する苦手意識が減ってきたように思う。

しかし問題点も多く残されている。コミュニケーション活動中心の授業では、文法事項の定着や英文をじっくり読んだり、きちんと音読することがおろそかになりがちなので、この点を十分注意して、バランスのとれた指導計画を立てる必要がある。また、文法事項の説明と訳読、その定着を図っての練習問題に学習の重点が置かれていた従来の授業のスタイルに慣れている生徒にとって、コミュニケーション活動重視の授業に対する拒否反応が見られたりする。そして、文法事項についての知識を試すことに終始するような学力考査が、現実問題として存在することも考慮していかなければならない。

現在、外国人英語指導員がほとんどの学校に導入されている中で、新しい英語教育の流れが現場に根づきつつある。教師自身も、言語本来の果たす役割であるコミュニケーション能力の育成という観点から、実践的な英語を生徒に身に付けさせるべく工夫していく必要がある。その際、三年間の見通しの中で、コミュニケーション能力を高めるための指導を、どの時期に、どの程度行うかといった計画性をもってやらなければならない。また上にあげたような問題点にいかに対処していくかが今後の課題である。

## 第2分科会

### 1 研究の仮説とねらい

仮説 「授業において、生徒同士で英語を『聞く』『話す』場と量を多くすれば、コミュニケーションを積極的に図ろうとする態度を育成できるであろう。」

「コミュニケーションを積極的に図ろうとする態度を育成する」ためには、語い・文法などの基礎的な知識を習得させるだけでなく、日頃から生徒に学習した英語を実際に使ってみようという意識をもたせ、それに慣れさせなければならない。そのためには、教師が「聞くこと」「話すこと」を中心としたコミュニケーション活動の機会を授業中に多く設定し、生徒の発話量を増やすことが必要となる。授業の中で、教師と生徒の英語でのやりとりだけではなく、特に生徒同士で英語を使う、または使わなければならない場と量を多く設定することにより、生徒がコミュニケーションを図ることに慣れてくるのではないだろうか。そして意欲をもって活動できるような雰囲気も生まれてくるのではないだろうか。以上の理由から上記仮説を設定した。

研究を進めるに当たって、まずWarm-upとして何かできないかと考えた。授業の初めに聞く・話すことを取り入れることができれば、それがそのあとに続く授業の中で、聞く・話す活動を容易に、かつ活発にさせることにつながると考えた。さらに、毎時間継続させるために、授業の進度に関係なくできるものということで、スピーチを取り入れることにした。次に、授業の展開部で生徒同士の聞く・話す量を増やすのに最も適当なのは、短時間で生徒全員が同時に活動できるペア・ワークだと考え、その場面設定や方法を工夫し、実践してみることとした。

また、仮説の実証を試みるひとつの手だてとして、アンケート調査を実施した。

### 2 研究内容

#### (1) アンケート調査

##### ア 調査のねらい

授業中に生徒同士の聞く・話す活動を取り入れている頻度と、生徒の聞く・話す活動に対する関心、意欲、態度との相関関係を調べることにより、仮説の裏付けを試みた。

##### イ 調査の時期と対象

調査は平成4年7月、第2学年担当英語科教諭およびその概当生徒を対象に実施した。

ウ 調査の内容および結果

〔教師向け〕 回答数 25名

Q：あなたは生徒間で聞く・話す活動（ペア・ワーク，スピーチ，スキット，インタビュー活動など）をどの程度，授業に取り入れていますか。

ア	ほぼ毎回取り入れている	4名	( 調査生徒数 418名)
イ	よく取り入れている	8名	( " 675名)
ウ	ときどき取り入れている	10名	( " 1103名)
エ	ほとんど取り入れていない	3名	( " 185名)
オ	まったく取り入れていない	0名	( " 0名)

〔生徒向け〕 回答数 2381名(右上参照)

Q1：あなたは授業で英語を話すことが積極的にできますか。

a：積極的に英語を話すことができます。

b：先生に言われたら話そうと努力します。

c：先生に言われてもなかなか話せません。

d：まったく話そうとしません。

	a	b	c	d (%)
アの生徒	24.6	60.6	11.7	3.1
イの生徒	19.4	62.8	14.1	3.7
ウの生徒	13.4	64.2	16.1	6.3
エの生徒	12.5	55.1	19.7	12.7

Q2：友達や先生やテープの英語を積極的に聞き取ろうとしていますか。

a：いつも積極的に聞き取ろうとしています。

b：ときどきは聞き取ろうとしています。

c：聞き取ろうと努力していません。

	a	b	c (%)
アの生徒	57.1	38.5	4.4
イの生徒	55.6	39.1	5.3
ウの生徒	50.5	43.4	6.1
エの生徒	28.2	59.8	12.0

Q 3 : 街で外国人に英語で話しかけられたら、あなたは次のうち、どのような行動を取ると  
 思いますか。

- a : 多少聞き取れなくても、積極的に話を聞いて答えようとする。
- b : わからなかったら適当に断る。
- c : すぐにその場から離れる。

	a	b	c (%)
アの生徒	58.9	32.3	8.8
イの生徒	53.5	35.5	11.0
ウの生徒	42.4	42.0	15.6
エの生徒	34.5	43.4	22.1

Q 4 : 列車内で向かい合わせの座席に座っていたら、外国人が前の座席に座ってきました。  
 あなたは次のうち、どのような行動を取ると思いますか。

- a : 自分の英語が通じるかどうか話しかけてみる。
- b : その外国人に話しかけられれば話しをしてみる。
- c : 寝たふりをするか、座席を替える。

	a	b	c (%)
アの生徒	5.1	76.4	18.5
イの生徒	8.3	72.3	19.4
ウの生徒	5.0	68.9	26.1
エの生徒	5.1	58.2	36.7

Q 5 : あなたは次のうち、どの項目に一番興味がありますか。

- a : 英語を使って友達や外国人と会話すること。
- b : 英語の本を読むこと。
- c : 英語を使って外国の人と文通すること。
- d : 英語の問題集を解くこと。

	a	b	c	d (%)
アの生徒	42.4	29.8	12.0	15.8
イの生徒	38.8	29.4	14.5	17.3
ウの生徒	40.7	25.5	16.0	17.8
エの生徒	31.7	21.4	16.9	30.0

#### エ 調査のまとめ

生徒間で英語を聞く・話す活動はどのクラスでも取り入れられているが、それらの活動を取り入れる頻度が高いクラスの生徒ほど、英語を聞いたり、話したりすることに積極的である。これは、英語を聞いたり、話したりすることに慣れており、抵抗感がないためと思われる。

この調査の結果から、生徒同士で英語を聞く・話す活動をできるだけ毎時間に継続的に

取り入れることにより、生徒のコミュニケーションを積極的に図ろうとする態度が育成できるものと考えられる。

## (2) スピーチ

### ア 選んだ理由

聞く・話す場と量を増やすための手段として次の理由からスピーチを選んだ。

- ①「英語を話さなければならない機会」を与えることで、人前で英語を話すことに徐々に慣れさせることができる。
- ②「自分の言いたいことを英語を使って伝えようとする態度」を育て、英語を話すことへの意欲づけとする。
- ③聞く側として「話し手の英語を理解しようとする態度」を育成し、話し手に対して質問したり意見を述べたりすることで聞き手の話す場も作り出せる。
- ④テーマを身近なものにすることで聞き手も興味・関心をもってコミュニケーション活動ができる。

### イ 実施方法

1日に2人の割合で、Warm-upとして行う。話す側のみに指導の焦点を当てるのではなく、聞く側への指導にも工夫を加える。そこで、評価カードを使用することにし、聞き手のポイントをしぼり易くした。そして、例文などを示しながら、内容に対する質問ができるように指導することとした。全部で5～10分でおさめるようにした。

(スピーチ例-My Treasure)

Hello everyone  
Do you know Santa Clause?  
Do you believe Santa Clause?  
I believe Santa Clause.  
My treasure is a letter from Santa Clause to me.  
This is the letter.  
I received it from Santa Clause about seven years ago.  
I send a letter to Santa Clause once in a year.  
I love Santa Clause very very much.  
I want to meet Santa Clause.  
Do you want to meet Santa Clause?  
Thank you

(生徒同士のQ&Aの例)

内容が聞き取れなかった場合に、次のような応答がしばしば行われた。

Q: When did you get it?

A: About seven years ago.

Q: Where did you receive it?

A: In my house.



夏休みに日記を書かせ、それをもとに「夏休みの思い出」のスピーチを行わせることもできる。

(スピーチの原案とする日記の例)

Saturday July 31  
 Today I went to the library with Saori and Teruko. We had lunch in my house. Then we went to the store and bought a dress and a pair of shoes. I went to my grand mother's house and we saw fireworks of the Sumida river. They were very beautiful.

(生徒用評価カードの例)

HEARING CARD	
SPEAKER.....	CLASS NAME _____
WHEN	
WHERE	
WHO	
WHAT	
評 価	LOUDNESS OF THE VOICE: A B C RANK: VERY GOOD . GOOD. NOT SO GOOD

(教師と生徒とのQ & Aの例)

T : Where did she go ?

S<sub>1</sub> : She went to the library.

T : Who went to the library with her ?

S<sub>2</sub> : Saori and Teruko did.

T : What did she do after lunch ?

S<sub>3</sub> : She went to the store and bought a pair of shoes.

#### ウ 指導上の留意点

途中でやめることなく、持続させることが何より大切である。そして、聞き手全員に聞こえるような声でスピーチをさせるように指導することが必要である。また、内容が乏しかったり、発音がおかしくても、一生懸命に聞くような態度の育成を心がけなければならない。

#### (3) ペア・ワーク

##### ア ねらい

- ① 習った文型に慣れさせ、それを使う場とする。
- ② 生徒同士の意味のあるコミュニケーションの場とする。
- ③ 英語による自己表現の場とする。

以上のねらいを持って実践を行う。

##### イ 指導の手順

授業の中で効果的にペア・ワークを活用するために、ねらい別に3段階に分類した。  
 第1段階(導入時用)一新出事項を使ってみる。話してみることを目的とする。  
 第2段階(展開時用)一新出事項を多く使わせ、それに慣れさせることを目的とする。  
 第3段階(授業のまとめ用)一新出事項を使って自己表現をさせることを目的とする。

ウ 指導上の留意点

- ① 教師が事前にやり方を示し、ペア・ワークがスムーズに行われるようにする。
- ② 日本語を使ったり、省略をしてしまったりすることのないように、ペア・ワークのねらいを理解させる。
- ③ 生徒にとって身近で、興味深い話題を取り上げ、生き生きしたコミュニケーションができるように工夫する。
- ④ 速さを競うようなものは、速さだけによって勝負が決まらないように工夫する。
- ⑤ ねらいとしている文型以外での間違いは、厳しく指摘しないようにする。
- ⑥ 生徒のやる気を評価するよう努める。

以下、上記の3段階におけるペア・ワークの例を示す。(不定詞を含む表現)

Pair work (第一段階例)

Q: Do you want \_\_\_\_\_ ?  
A: Yes, I do. / No, I don't.

Pair work (不定詞形容詞的用法・第二段階例)

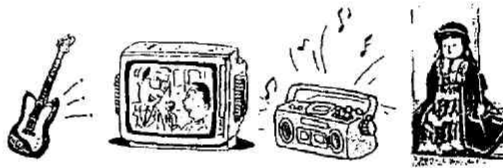
① \_\_\_\_\_ 外へ折る  
Q: Do you have money to buy \_\_\_\_\_ ?  
A: Yes, I do. / No, I don't.

choices

to study English
to play tennis
to go to USA
to drink milk
to eat pizza

対戦表

1回戦	
2回戦	
3回戦	
4回戦	
5回戦	



a new guitar ¥72000	a television ¥56000	a CD player ¥32000	a doll ¥4000

(やり方)

あらかじめ全員にchoicesの中からYesとするものを1つ選び、下の自分の答えの欄に記入する。ゲーム中は折って見ないでやる。5人に質問をして、Yesなら○を、Noなら×を、対戦表に記録する。○の多い人が勝ちになる。

外へ折る

Your answer:

I want \_\_\_\_\_

(やり方)

まず、①に1~99までの中から好きな数を書く。全員書き終わったら、その数に00を付けさせる。そうしてできた数が、各自の持っている金額とする。質問をしていく。買える金額を持っている人の名前を裏に記入していく。ただし、買える生徒の名前は一度だけとするルールを設ける。購入できる名前の表はマス・ビンゴになっている。ビンゴの本数が多い方が勝ちになる。

Pair work (第二段階例)

(やり方)  
前もって、横の列で各1つ答えを用意して、下の欄に書いておく。  
Bingoのマスの内容を質問していき、相手がYesと答えた場合は( )にその人の名前を書きましょう。何本Bingoになったか、本数の多い人が勝ちです。

(Q&A)  
Q: Do you want (like) to ~?  
A: Yes, I do. / No, I don't.

(ルール)  
・英文を省略しない。  
・自分と相手とがお互いに質問しあうこと。  
・最初は、1~5まで順に質問していき、2回目からは自由に質問してよい。  
・1人に1回ずつ質問すること。

1	want to play baseball	want to play tennis	want to play the piano	want to play the guitar	want to play Nintendo
2	want to watch TV	want to sing a song	want to study English	want to sleep here	want to eat cakes
3	want to be a singer	want to be a teacher	FREE	want to be a doctor	want to be a sports player
4	like to swim in the sea	like to play soccer	like to play table tennis	like to cook dinner	like to read books
5	like to play the piano	like to watch TV	like to watch movies	like to sing songs	like to dance with your friend

Pair work (第三段階例)

(want to ~ / like to ~ のまとめ)  
あらかじめ(1)(2)に入れる語を [ ] の中から選び、決めておく。  
たくさんの人と会話をして、(1)(2)の語が自分と同じ人をさがしあてる。  
その人数が多い人が勝ち。(3)はラッキーワードあり。

A: Hello. I went to [ 1 ] yesterday. I wanted [ 2 ].  
Where did you go?  
B: I went to [ 1 ] (too). I (also) wanted [ 2 ]. I like [ 2 ]. Do you like it?  
A: Yes, of course. / No, I like [ 3 ] the best.  
A, B: See you.

1	2	3
the park	to play baseball	2と同じ語
the library	to play tennis	
Big Egg	to read books	
Seibu Stadium	to study	
	to watch baseball	
	to watch a rock concert	
	to watch American football	

メモ

聞いた人	1	2	3	聞いた人	1	2	3

### 3. 研究の成果と課題

9月より各研究員が実証授業を継続的に行った結果、生徒がどのように変容したのかを追跡調査した。調査方法は、7月に行ったアンケートと同じものを、11月に第2分科会研究員の担当生徒(第2学年のみ)に再度行った。結果は、「聞く」「話す」ことについてより積極的な態度を示すようになった。例えば7月と11月の数値を比較すると、Q1 ア 19.3%→23.0% イ 58.7%→61.9% Q2 ア 49.4%→58.9%であった。実証期間は3か月と短かったが、取り組みの成果が表れてきている。

具体的には、スピーチやペア・ワークなどにより、言語使用頻度が高まり、生徒同士の生き生きとしたコミュニケーション活動を作り出すことができた。特に学習の遅れがちな生徒たちに積極的な活動が見られた。

今後の課題として、生徒同士の活動は表面的には活発であるように見えるが、まだまだ教師にコントロールされている活動が多かったため、生徒同士が、より自主的に言語活動を行うことができる取り組みをするべきだと考える。例えば、ペア・ワークでは、第3段階の自己表現活動をもっと充実させるべきだし、スピーチにおいては、スピーチの内容について、活発な質問や感想等が出るような活動にして行くことなどがあげられる。そのためには、三年間を見通し、はっきりとした目標をかけた計画が不可欠である。また、生徒の実態をよくとらえ、多様化したニーズに応えるための様々な工夫が必要であり、生徒を励ますために一つ一つの活動を適切に評価していくことも必要である。

### 第3分科会

#### 1 研究の仮説とねらい

第3分科会では、「AETとのTeam Teachingを授業の中で効果的に行い、生徒が直接外国人と英語で話す機会を多くすれば、コミュニケーションを積極的に図ろうとする態度を育成することができるであろう。」という仮説を立て、研究を進めた。

最近、急速にAETの導入が進み、生徒はNative Speakerを肌で感じ、いわゆる「生きた英語」に直接触れる機会がもてるようになってきた。まさにAETは、生徒にとって最大の学習環境であると言える。しかし、AETを効果的に生かしたTeam Teachingを行うことは難しく、生徒は興味をもちながらも、AETへの対応に自ら積極的になれないのが現実である。

そこで、私たちは上記の仮説を実証するために、授業の導入、展開、まとめという指導過程に、AETと直接英語で接する機会をできるだけ多く設定した。また、AETとの授業を通し、コミュニケーション能力を構成する4つの要素のうち、Discourse CompetenceとStrategic Competenceを向上させることが可能であり、生徒の積極性をさらに引き出すことができると考えた。

そして、2学期に実証授業を行い、AETとのTeam Teachingやペア・ワークをはじめとしたコミュニケーション活動のあり方についても、研究を深めることにした。

#### 2 研究内容

##### (1) 指導例 ① New Horizon English Course 2 Lesson 5

##### Emi Likes To Take Pictures

##### 指導過程

過程	時間	学習事項	生徒の活動	JTEの指導	AETの指導	指導上の留意点
導		1. あいさつ及び簡単な会話	大きな声であいさつをする。 AET及びJTEと簡単な会話を行う。	質問に対する生徒の答えを板書する。	あいさつする。 生徒と簡単な会話を行う。	雰囲気作りのため英語で挨拶をし、簡単な日常生活に関する問答から学習に入る。
		2. 前時の復習 (1) Choral reading	大きな声で読む。	AETとModel readingをする。	JTEとModel readingをする。	大きな声を出させる。

入	10分	(2) 内容確認	ワークシートを見て確認する。	前時の内容を確認させる。				
		(3) Chart drill	絵を見て、教師の質問に答える。	AETと机間指導をする。	JTEと机間指導をする。			
展          開	35分	3. 新出単語	教師の質問を聞いて類推する。	picture cardを生徒に見せる。	絵を用いて簡単な英語で説明する。	集中させる。		
		4. Listening Pointsの提示	項目を確認しながらノートにメモする。	Listening pointsを提示する。(OHP)		①だれとだれの対話なのか。 ②どこへ行く予定なのか。 ③何時にいくのか。 ④何をもっていくのか。		
		5. Model Dialogue	ポイントを押さえてしっかり聞く。	AETとModel Dialogueを行う。	JTEとModel Dialogueを行う。	二回ゆっくりと読む。		
		6. 本文の内容理解	質問に答える。	AETの言う文に対し、Tor Fを行う。	Tor Fの判断を生徒に促す。			
		7. 新出単語の発音	大きな声で言う。	フラッシュカードを生徒に見せる。	フラッシュカードの単語を発見する。	音声に集中させる。		
		8. Choral reading	大きな声で読む。	生徒と一緒に音読する。	音読する。	大きな声を出させる。		
		9. 基本文の説明 (be going to)	教師の説明を聞いて類推する。		基本文を英語で説明する。	集中させる。		
		10. 言語活動 (Dialogue game)	なるべくたくさんの友人から情報を集める。	ゲームに参加する。	ゲームに参加する。ゲーム終了後、生徒の点数を確認する。	日本語を使わない。		
		まとめ	5分	11 本時の確認	文法内容の確認をする。本文の内容をワークシートにまとめる。	本時の内容について簡単にまとめる。		

#### 研究主題との関連

コミュニケーション能力の中のDiscourse Competence, Strategic Competence の二つの要素を養うために、言語活動の形態を工夫して、生徒が直接AETと英語で接する機会を多くした。本時では、指導過程の2, 5, 9, 10に設定した。

指導例 ② New Crown English Series 2 Lesson 7 Noise

指導過程

過程	時間	学習事項	生徒の活動	JTEの指導	AETの指導	指導上の留意点
導入	10分	1. あいさつと簡単な会話	大きな声であいさつをする。 AETの質問に答える。	質問に対する生徒の答えを板書する。	あいさつする。 簡単な質問をする。 (曜日・月日・天気)	授業開始の意識を明確にする。明るい雰囲気を作る。
		2. スキット (評価表を使用する。)	ペアで既習の英語を使って会話する。 他の生徒は評価表に評価を記入する。	会話を録音する。 必要事項を記入することを指示する。	スキットの評価を生徒に聞く。 スキットに関するコメントを与える。	スキットに対しては拍手をさせる。 評価に対しては挙手させる。
展開①	12分	3. ビンゴゲーム (冊子を使用する。)	あらかじめ各自で記入した冊子を使う。 対戦表に勝敗を記入する。	一番早く出来た生徒にシールを与える。	単語を読み上げる。	BINGO (完成) ONE LEFT (あと1つ)の声をさせる。
		4. 前時の復習 1) 新出単語の復習 2) 本文の音読 Read and look up 3) 基本文型の練習 4) ダイアログゲーム	AETの後に続いて発音する。  ・ AETの後に続いて教科書を音読する。 ・ 1行ずつ教科書を黙読後、教科書を見ないで言う。  ・ ペアワークで練習を行う。	フラッシュカードを生徒に見せる。  生徒と同じ作業をしながら、生徒の音読の状態を見る。  ゲームシートを使って練習の仕方を教える。	フラッシュカードの単語を発音する。  ・ 教科書を音読する ・ Read and look upの指示を1行ごとに行う。  生徒と会話する。	大きな声で、3回ずつ発音させる。  ・ 大きな声で読ませる。 ・ 教科書を見ないで言わせる。  ゲームの仕方を理解させる。
展開②	23分	5. 本時の単元 1) 基本文型の提示 Will you~? Shall we(1)~?	JTEとAETとの会話を聞いて、その意味を考える。	AETと会話する。  新出の基本文型をOHPで確認する。	JTEと会話する。	聞くことに集中させる。
		2) 基本文型の練習 3) Listening 4) 本文内容の確認 True or False 5) Reading	・ ワークシートを使用したペアワーク ・ AET, JTEとの会話を行う。  Listening pointsを確認して聞く。  AETの言う文に対し、T or Fを行う。  JTEとAETの後に続いて読む。	・ ワークシートの配布と説明を行う。 ・ 生徒と会話する。  Listening pointsを提示する。(OHP) AETとの Model Dialogueを行う。  T or Fの判断を生徒に促す。  生徒と一緒に音読する。	生徒と会話する。  JTEとの Model Dialogueを行う。  本文の内容に関する文を3つ言う。  音読する。	基本文型の意味内容を理解させる。 積極的に会話させる。  聞くことに集中させる。 ① 誰と誰の会話 ② 場所はどこか ③ 会話を妨げるものは何か T or F のどちらか挙手させる。  大きな声で感情をこめて読ませる。
まとめ	5分	6. 本時の確認 7. 宿題	文法内容の確認をする。  ワークシートをやってくる。	May I~? } 比 Will you~? } 較 Shall we(1)~? } OHPで確認する。 本文を理解させる。	左記の内容についてJTEと会話する。	3つの文の違いを理解させる。  本文の概要をまとめさせる。

研究主題との関連として、指導例①で示したコミュニケーション能力の中の2つの要素を養うために、本時では、指導過程の4 3)4), 5 1)2)に設定した。

(2) 指導上の留意点

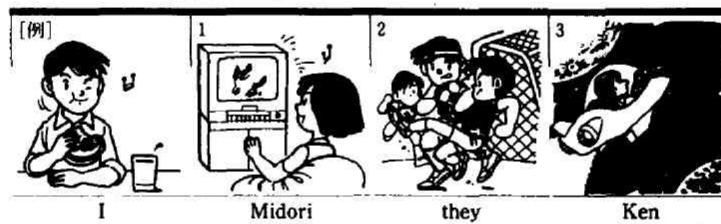
ア 導入時には、AETとのコミュニケーションが気楽にとれる明るい雰囲気作りに心がけていく。たとえば、簡単な会話では、曜日・月日・天候などの内容に留める。

イ Skit については自己表現力を付けさせると同時に、人前で英語を使うことに慣れさせることを目標としている。また、Skit を評価するためには、そのSkit をよく聞いて理解しなければならない。更に、AETがそのSkit に与えるコメントを聞き取る作業も含めて「聞く」力を付けさせることに心がけている。

ウ 授業のリズムを作る上で、ビンゴゲームでは、AETに単語を素速く読みあげてもらう。

エ Chart Drill では、クラスを2つに分け、AET及びJTEで個々の生徒にQ&Aを行う。生徒はPicturesを見て質問に答える。この練習で基本文型の定着を図るとともにAETと英語で話すことに対する抵抗感を少なくすることができる。

Chart 4 · LESSON 5 ●



( New Horizon English Course 2より )

[例]① AET: What does Midori want to do ?

Student: She wants to watch TV.

② Student: What does Midori want to do ?

AET: She wants to watch TV.

オ 基本文については、ダイアログゲームを取り入れ、AET、JTEも参加しながら、数多くの相手と会話し、身につける。得点形式を取り入れゲーム性を高めることで、英語を楽しく学ぶ雰囲気を作る。

カ Listening Points については、Section の指導においてJTEが本文の内容に関わる複数のListening PointsをOHPを使って提示する。生徒はそれらを意識しながら、AETの音読又はAETとJTEのModel Dialogue を聞く。

キ JTEとAETのやりとりを聞いたり、ゲームや会話を通して直接AETと触れ合う中で、会話がとぎれた時のつなぎ方や場面に応じた表現が学べるよう配慮するとともに、教師は常にそれを意識しながら授業を進めていくことが大切である。

(3) 資料

ア Skitの評価票 (指導例 ②)

**CHEER UP CARD**

DATE: \_\_\_\_\_

NAME: \_\_\_\_\_

ACTOR (ACTRESS): \_\_\_\_\_

**((EVALUATION))**

① MEMORIZATION (記憶)	A · B · C
② LOUDNESS (声の大きさ)	A · B · C
③ ACTION & EMOTION (動作、感情)	A · B · C
④ EYE CONTACT (相手の目を見ているか)	A · B · C

TOTAL (総合)	A · B · C
------------	-----------

イ Dialogue Game (指導例 ①)

**DIALOGUE GAME** NO: 4

A: What are you going to do tomorrow?  
B: I'm \_\_\_\_\_.

going to help my mother  
going to watch TV  
going to do my homework  
going to go to Kamakura

< My partner >  
I'm \_\_\_\_\_.

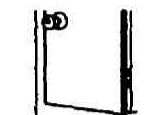


< Point > 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

ウ Strategic Competenceを意識したペア・ワーク (指導例 ②)

**WORKSHEET**

Le7- 4(P)

1) A: Will you \_\_\_\_\_ ?  
B: ア) Sure. 2) All right.  
3) Of course. 4) Yes, I will.

①  open the door	②  wash the car	③  play the guitar
---	--	--

(New Horizon  
English Course  
1, 2, 3より)



エ 本文内容の Comprehension Check としてのワークシート (指導例 ②)

<b>WORKSHEET</b>		Le7-4
1. WHO	_____	
2. WHAT	_____	
3. WHERE	_____	
4. WHEN	_____	
5. OUTLINE	_____	
	_____	
	_____	
	_____	
Class	No.	Name

### 3. 成果と改善点

#### (1) 成果

- ア 導入部における AET との簡単な会話や, Bingo Game を通し, 明るい雰囲気の中で授業を始めることができた。
- イ Skit や Dialogue Game などのペア・ワークを授業の中に位置づけることで, 生徒同士の生き生きとした会話量が増え, 教科書内容から一歩踏み出した実践的な会話練習にまで広げられるようになった。
- ウ AET との Picture Cards を使ったの会話は, 日頃英語の発話が少ない生徒にも会話をするチャンスが生まれ, コミュニケーションをする喜びを感じさせることができた。
- エ Section の指導過程において, Listening Points の提示は集中して聞く姿勢を養うのに効果的であった。
- オ Team Teaching の Model Pattern を確立することで, 授業設計の中に様々な situation に応じた AET と JTE の共同作業が位置づけられた。

#### (2) 改善点

- ア Game や AET との会話を通して, 自然な会話をする事, また, Strategic Competence, Discourse Competence の向上を図る指導を試みたが, まだ実践に取り組んで間もないので十分な成果は得ていない。さらに研究を積み重ねる必要がある。
- イ 教師同士のアイデアでさらに有効な Game を開発していく必要がある。
- ウ AET との打ち合わせの時間を十分に確保することが, 効果的な Team Teaching を行うのに大切である。

#### Ⅳ まとめと今後の課題

本研究は、コミュニケーション能力を育成する上で、それとは切り離して考えることのできない生徒のコミュニケーションに対する意欲や態度に焦点を当てたものである。私たちは三つの分科会に分かれ、それぞれ仮説を立てて研究を進めた。

第1分科会では、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4領域それぞれに疑似コミュニケーションを取り入れた言語活動を考えた。そして、それらを取り入れることで、生徒が英語を使わなければならない場面を普通の授業の中で多く設定した。その結果、授業がおもしろいと感じる生徒が増えて授業が活気づくと同時に、生徒は主体的な活動を通して、英語をコミュニケーションの手段としてとらえるようになってきた。

第2分科会では、生徒と教師にアンケート調査を実施し、生徒間での「聞く」「話す」活動の場と量とコミュニケーションへの積極的な態度との間に強い相関性を見いだした。そこで、生徒同士のこうした活動の場と量を増やす手だてとして、スピーチとペア・ワークを取り上げて研究を進めた。授業の初めにスピーチを行うことで、その後の「聞く」「話す」活動を活発化させる雰囲気作りができた。また、ねらい別の3段階のペア・ワークを通して、生徒の言語使用の頻度が高まり、意欲的、かつ活発な活動ができるようになった。

第3分科会は、Team Teachingの中で生徒が直接AETと英語で接する機会をいかに多く作り出していくのかを、授業の導入、展開、まとめに分けて工夫を試みると同時に、指導手順のモデル作りにも取り組んだ。生徒は自分の英語がAETに通じたという喜びや成就感を体験できたことで、普通の授業でも意欲的な取り組みが見られるようになった。また、話すことばかりでなく聞くことの重要性が分かり、集中して聞くようになった。

この研究を通じて私たちは、教師の創意工夫で生徒のコミュニケーションを積極的に図ろうとする態度を十分育成することができると実感できた。これまで音読にでさえ消極的で抵抗感を抱いていた生徒の多くが、ゲーム、ペア・ワーク、スピーチなど様々な活動の中で、楽しみながら主体的に英語を話すようになってきた。教師もこうした生徒の変容を目の当たりにして、楽しみながら教材研究をし、生徒と授業を創り出すことができるようになった。

いろいろな成果を得た本研究ではあるが、今後の課題も残されている。本年度の研究は、聞くこと、話すことを中心に取り組んだ。しかし、コミュニケーション能力というのは4領域全てにわたるものであるので、今後、4領域相互のバランスをいかにとっていくかを考えていかなければならない。また、評価については研究が不十分であると言わざるを得ない。これからはこうした課題にも、各自取り組んでいきたい。